

抗 Myc-tag 抗体,ウサギ血清

60-041 100 μ l,

エピトープタグ法は発現タンパク質の検出や単離・精製に有力な手段となっている。エピトープタグはタグ特異的抗体によって容易に認識される短いペプチド配列である。エピトープタグはサイズが小さいためタグをつけたタンパク質の生化学的性質に影響を与えない。多くの場合、タグのアミノ酸配列をコードする塩基配列を目的の遺伝子に連結して細胞内に導入し、タグを持つ融合タンパク質を生成させている。

抗エピトープタグ抗体はリコンビナントタンパク質の検出、免疫沈降、イムノアフィニティ精製などに有効である。

KLH に結合した **EQKLISEEDL** ペプチド配列をウサギに免疫して**抗 Myc (EQKLISEEDL)-tag** ポリクローナル抗体が作成された。この配列はヒトの c-Myc のアミノ酸 No.410-419 に相当する。

用途:

1. ウェスタンブロッティング (1/2,000 希釈)

2. 免疫沈降

他の用途は試されていない。

抗原: KLH に結合させた **EQKLISEEDL**

反応特異性: この抗体は Myc-tagged 融合タンパク質を認識する。

形状: 0.05% sodium azide 添加抗血清

保存: -20°C (長期は-80°C)

文献:

1. Munro S & Pelham HR "Use of peptide tagging to detect proteins expressed from cloned genes: deletion mapping functional domains of Drosophila hsp 70" *EMBO J* 3: 3087-3093 (1984) PMID: [6526011](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/6526011/)

図 1 この抗体を用いたウェスタンブロッティングによる Myc-tagged タンパク質の検出

∴ 空の vector をトランスフェクトした 293T 細胞の lysate
 +: Myc-tagged PB2 遺伝子を担っているプラスミドをトランスフェクトした 293T 細胞の lysate

図 2 この抗体を用いた Myc-tagged タンパク質の免疫沈降とウェスタンブロッティング

∴ 空の vector をトランスフェクトした 293T 細胞の lysate
 +: Myc-tagged NPM1 遺伝子を担っているプラスミドをトランスフェクトし 293T 細胞の lysate

図 1

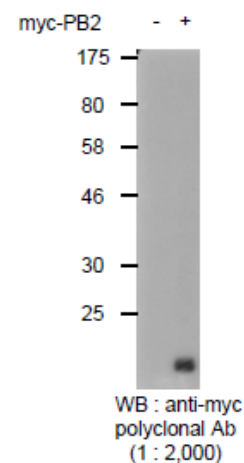


図 2

